

## 第 54 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

ゼミ名	宮本ゼミ	チーム名	俺らもイギリス行きたいんじゃ！
タイトル	海洋プラスチックとビジネス		
テーマ群	c) 公共経済		
メンバー	岡本空、川元駿輔、岸原圭佑、坂野百合、山内澄花、桑原幸佑、橋本葉奈		
研究計画内容	<p><b>【研究背景】</b></p> <p>近年、海洋プラスチック問題が大きな問題となっており、日本自然保護協会(2020)によれば、全世界で年間 1200 万トンのプラスチックが海に流れて込んでいる。WWF ジャパン(2018)によれば、海洋プラスチックの影響により甚大な経済的損失をもたらしており、アジア太平洋地域での年間の損失は、観光業年間 6.2 億ドル、漁業・養殖業では年間 3.6 億ドルになると推定されている。この問題解決に向け、海洋プラスチックを再資源化するビジネスはあるが、海洋プラスチック回収やその資源化に膨大なコストが掛かり、製品の値段が高く、ビジネスが拡大していない現状がある。海洋プラスチックを再資源化するビジネスを発展させるために、本研究では、ナッジを用いて消費者のリサイクル製品に対する需要を拡大させる方法を検討する。若松(2023)によれば、ナッジを活用したり、リサイクル製品の情報を提供することで、消費者の購買意欲を増加させることが明らかになっている。私たちは、どのようなリサイクル製品の情報が消費者の購買意欲に対して、より大きな影響を与えるか、アンケートを活用して分析をおこなう。</p> <p><b>【研究内容】</b></p> <p>本研究では、11 月初旬から中旬にかけて、大学生を対象としたアンケート調査を実施し、リサイクル製品に関する支払意思額を調査する。環境評価手法で用いられるアンケート方法を参考に、リサイクル製品の支払意思額とラベルや情報提供を加えた場合の支払意思額と比較する。リサイクル製品に関する情報提供は、複数の情報提供の方法についてアンケートを実施し、それらを比較することで有効な情報提供について検討する。どのような情報提供が一番支払意思額を上昇させるかを明らかにする。</p> <p><b>【期待される効果】</b></p> <p>これらの結果は、消費者のリサイクル製品に対しての支払意思額をするため上昇させるためにラベル表示に加えて、どのような情報提供をすると効果的なのかを明らかにする。本研究から明らかになった有効な情報提供方法をもとに、リサイクル製品の需要拡大に貢献する政策提言をおこなう。</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>「レジ袋有料化でも海洋プラスチックは解決されない理由」(日本自然保護協会、<a href="https://www.nacsj.or.jp/2020/09/21731/">https://www.nacsj.or.jp/2020/09/21731/</a>、2024 年 10 月 23 日)</p> <p>「海洋プラスチック問題について」(WWF ジャパン、<a href="https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html">https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html</a>、2024 年 10 月 23 日)</p> <p>若松美保子「効果的なナッジに向けて—環境・資源経済学における実験的アプローチからの知見」(環境経済・政策研究 16 巻(2023)1 号 p. 11-17)</p>		